

2017. 11. 18

平成29年度 東京学芸大学公開講座
学校司書応用講座Ver. 7「授業に活かす学校図書館」

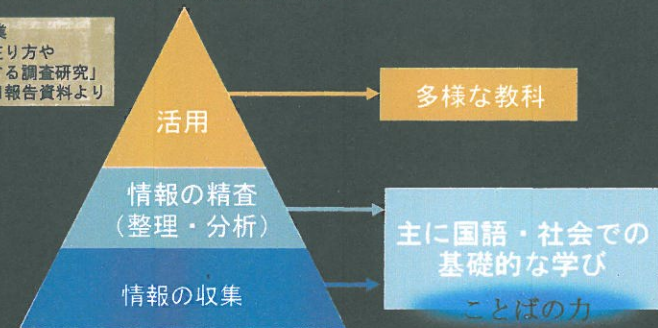
学校図書館を使って学ぶメディアリテラシー

▶『おくのほそ道』でメディアリテラシー

1

東京学芸大学附属世田谷中学校 渡邊 裕 wtnb530@u-gakugei.ac.jp

授業と学校図書館の協働に関わるモデル

平成27年度文部科学省事業
「学校司書資格・養成の在り方や
資質能力の向上等に関する調査研究」
報告会【実践報告】当日報告資料より

この積み重ねによって、情報活用能力を育成

- * 上位概念ではなく、生徒の触れる表出した「情報」量
- * 授業での活用：個々の目的に応じ、往還⇒熟達化

現在の課題としての「力」

これからの子供たちには、社会の加速度的な変化の中でも、社会的・職業的に自立した人間として、伝統や文化に立脚し、高い志と意欲を持って、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる。

『教育課程企画特別部会 論点整理』

(平成27年8月 中央教育審議会 初等中等分科会 教育課程部会 教育課程企画特別部会)

蓄積された
知識膨大な情報
主体的に判断問いを
立てる

他者と協働

価値を
生み出す

現在の課題としての「力」

2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

(1) 各学校においては、生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む。)

問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

(平成29年3月『中学校学習指導要領』「第2 教育課程の編成」)

情報活用力

問題発見・
解決能力

横断的視点

国語科

「情報」という視点

「資料」の活用



【意外性→「当然」】

学校図書館・連携：メディアリテラシーを「取り込む」ことでなにができる？

メディアリテラシーという「新たなもの」が追加されるのではなく、
今見えているものの可能性を広げていくきっかけを見出すことができるのではないか

見えているもの
／いないもの

背景にある
「仕組み」

汎用性

連続性・重層性への着目

「情報活用」とメディアリテラシー：経験が重要

経験・蓄積をいかに活用することができるか【連動性】



蓄積

参照

可視化
(アウトプット)

自己内蓄積

空間的蓄積

「情報」を形作る「つながり」への着目

複数資料の「比較」という
思考操作

資料の性質（メディア特性）を
踏まえた活用

“図書館”という「場」から

ビジュアル化された「情報」の集合

定型

相対化

併用の場

前段階での信頼性の保証

「他の人」の存在

・ 表出する「情報」の固定性

・ 既定のものからの顕在化
・ 全体からのとらえ

メディアリテラシー: やってみることで、意識できるようになる

何を「見て」いるのか／何が「見えていない」のか

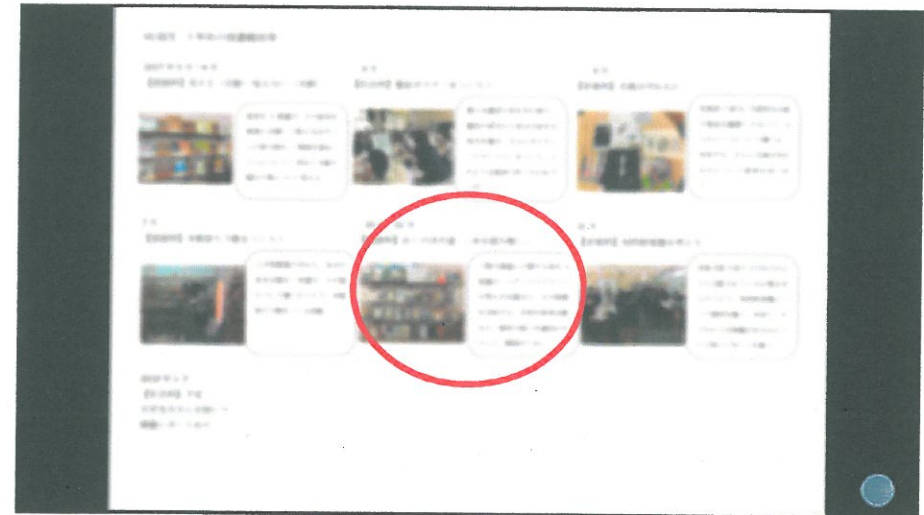
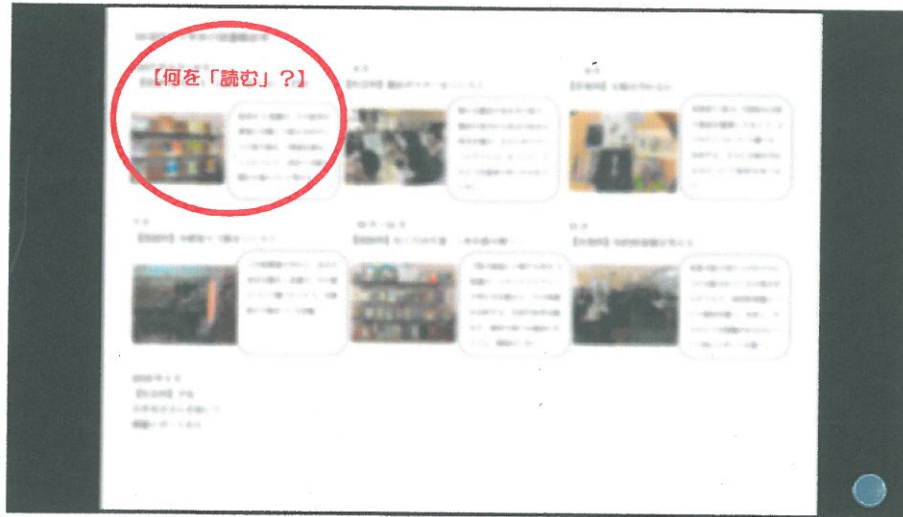
“当たり前”を問い返す

- 分析の視点の獲得
- 抽象化・相対化→横断的知識
- なにを「読み」、どう「意味づける」のか

解体→再構築

比較





「蓄積」からどのような授業ができるのか

『見えないもの』への着目 結びつきの創造

実践例:「おくのほそ道」／メディア・リテラシー

「本」の「情報」を読み解く

新潟大学 足立幸子先生「読者想定法」を参考に

印象・解釈

本との向き合い方 「比較」 収集の方法・視点

知識・積み重ね



1. 知識の整理
【比較の軸】

※こういうものであるはずなのに……

見えていないもの
【切り取られた世界】

発展・活用
【創り出す】

2. 視点の獲得

本をとらえる視点
【主観】

視点の獲得

学校図書館協働・連携「きっかけづくり」をどうつくるのか

問題の共有 学校司書の方と **相談しながら**

一ヶ月くらい前には
「こんな感じのことをしたいんですけど」

図書館からの働きかけも

(抽象的)

**図書館からみた
生徒の状態や課題・期待・要望**

↓

現在ある資料ではどこまで補えるか
公立図書館からの貸し出し
コーナーの設置

**「日常」と
の接合点**